



宇多天皇事記

史料世二

附録下

9175
2068
22





史料卷之廿二

宇多天皇事記附錄下

后妃并皇子皇女事

卷中抄云如清五人凡二人性之強者一人

按愚管抄同之

皇代記云皇子皇女廿一人男十一人女九人

按歷代皇紀為男八人蓋褒子所生三子以
為延喜帝子除之也扶桑略記為十三人疑
又有早世皇子如伊勢
所生者以其數也



后妃

中宮藤原温子

事詳延喜七年六月八日

贈皇太后藤原胤子

事詳寬平八年六月三十日

女御橘義子

一代要記云女御從四位上橘義子寬平五

年正月二十六日為女御八年正月二十一

日叙從四位上參議廣相一女

皇胤紹運錄云齊中親王母女御橘義子齊

世親王母同齊邦親王母同君子內親王母

同

政事要略管家奉昭宣公書云廣相女子者

今上宇多在邸而所娶娶後四年乃為仁和三天子雖可

不專後庭之夜何以乍割前日之恩中淑子尚侍

殿下者今上之所母事其勞之為重雖中宮

而不得其功之為深雖大府而不得而廣相

始以女子附屬尚侍轉自尚侍奉進今上全文

在寬平二
年五月

女御管原衍子

一代要記云女御從四位下管原衍子寬平
八年十二月為女御右大臣管道真一女
寬平御遺誠云息所管氏宣旨滋野等者日
日出居女房之侍所行藏人等日給之事兼
正進退禮儀至有更衣之時又加教正禮節
其更衣藏人隨事給賞物依功授官爵之事

皆悉所執奏申行也管氏是好省煩事之人
也宣旨又寬緩和柔之人也激勵各自令勤
仕之新醍醐君慎之

女御橘房子

事詳寬平五年十一月十六日

更衣源貞子

一代要記云依子內親王母更衣從五位上

源貞子民部卿昇一女

按又見皇
嵐紹運錄

勅撰作者部類云小八條御息所貞子民部卿昇

女

後撰集云寛平治女と申すは
昌泰の丁卯^{昌泰}幸^す市^し岐^ぎの^のめ^めら^らま^まに^にの^の人^人き^きり^り
り^りを^を臨^臨く^くち^ちり^りも^もは^はり^りと^とを^をい^いは^はる^るれ^れた^た
書^書く^く山^山帳^帳に^に記^記す^すは^はり^りる^る小^小八^八條^條治^治息^息前^前立^立す^す
か^かは^は昭^昭む^む計^計迫^迫り^り終^終と^と誰^誰か^かを^をい^いは^はる^るを^をい^いふ^ふ
從二位藤原褒子

一代要記云雅明親王母從二位褒子左大

臣時平二女号京極御息所

皇胤紹運録云雅明親王母從二位藤原褒子

載明親王母同行明親王母同

大鏡云大井河部^{延長四}氏^氏に^に當^當見^見の^の小^小路^路乃^乃み^みや^や

左^左和^和の^の由^由々^々に^に親^親王^王の^の七^七歳^歳と^と申^申す^すを^を臨^臨

り^りと^と申^申す^すの^の事^事を^をい^いは^はる^るは^はり^りと^と申^申す^す百人^{百人}を^を

い^いは^はる^るは^はり^りと^と申^申す^す

後秘傳云むつと京極の事と申すは時平

高僧傳要文抄云靜觀僧正傳云寬平更衣
藤原保子入道在檀林寺繕寫大般若經一
部夢見其經或文字亂脫墨汗不明或卷軸
滌汗甚有不淨覺畢歎息更亦發願欲悉改
寫其夜夢有神人告云汝不可改寫若干經
但須請天台座主令稱經題名者汝之大願
如法滿足覺畢甚太歡喜即遣使奉請和上
不赴於是太上皇^{宇多}以御書送和上其詞云覺

白誓首頂拜檀林寺有一小尼書寫大般若
經其尼愁云此經一生大願唯請天台座主
欲遂其願而自力不堪難可請得羨依御力
促令赴向云二我大師殊佳慈悲賜加咒願
遂其尼望甚以為悅忝以少事敢驚尊聽唯
其日來、月十三日弟子覺謹言

元良親王集云系極の如く而す、亭子院
おと、乃、時、けき、後、不、事、九、月、九、日、覺、言

隆ひけふ世は好むにあまてふときよきく乃却
 豊を給ぬしきんち豊すれさゆか
 くの山娘とも今かつ一やうゆふとて序島和
 國のさやあやふ人よるえぬいしむ
 ぬしは後
 按此歌出後撰集而為親王
 詠先是有贈答數首今略之
 今まこわがし難波の身と此のてりむむと
 其おむふ

後秘抄云く此は^{京極}名前のむくし三井守此か
 ちりたか加ふとてしとて給而ふけし
 あまけふにほいしききほひりあまかの守あう
 ありてまふ給者まほこのし
 津東のことのしとてむらうふあまあまらう
 かしなまふはらうとて給りあに
 う一しはきほしけあうさのしとて給ありらう
 ことのかう小おむと給しむるおむり比志あま

ひてと〜かゝい若き〜に源氏の降ちよむと終はる
かゝすすみちをきこめても〜を降ちればむと終
さへ後り〜みちをき治〜しては終はるふゆ
ま〜さ〜はゆと終はる〜も我を心と終
ゆ〜さ〜後のも〜もあせ〜も〜も〜も〜も〜も〜も
よ終まひか〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も
か〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も
と終はるれ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も

よふ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も
若きあゝかあり終ま〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も
は〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も
ま〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も

平記 三国傳
記 榻鴨曉筆

伊勢御息所 伊勢失其名仍姑擧字
下兵庫御息所等倣之

古今集目錄云伊勢大和守從五位上藤原
繼蔭女七條后宮女房寬平之間為更衣誕

皇子

世六人歌仙傳云伊勢前大和守從五位上

藤原繼蔭女伊勢守元寬平御時更衣云二雖

無所見皆是兒女子之說也寬平末年誕生

皇子之由見家集七條后宮人云二承平四

年三月廿六日皇后穩子五十御賀御屏風

伊勢獻和歌同七年十二月十二日陽成院

七十御賀御屏風伊勢獻和歌

今昔物語云今ハ昔伊勢ノ御息所ノ未タ

御息所モ不成テ七條ノ后ノ御許ニ候ケ

此ル枇杷左大臣仲平未タ若テ少將ニ有ル

程ニ極ク思テ通ヒ給ル忍ト為レ人

自然ラ鬚ニ其ノ氣色ヲ見リ其後少將

通ヒ不給テ音无レ此ク讀ム遣

ケル人シレス絶ナマシカハワニツクモ

ナキ名ヲト夕ニイハマシモノヲ少將此

レ見哀トレト思給ムヒケ通ムテナ此ノ度ハ現
テハレ極ク思テ棲給ルケ

伊勢集云しつきの清時ありあまけむ大宮^温と
而ときこゆるはつ和孫大和^{継隆}りねあ。人^{伊勢}さふ
あひりまあやいゝかあゝゝゝおとまふゝあゝも
あませよまらりどらふらり清^{仲平}せりり
之後いひまらるる後と志をゝるさゝりまらり
り終りいゝありまらるるあやいゝゝゝあまらり

りかゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とほゝせゝゝあゝけめとゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
時のお月^{道真}ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あまもまらるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

今昔物語云今ハ昔延喜醍醐天皇御子ノ宮ノ
御著袴ノ料ニ御屏風ヲ為セ給テ其ノ色
紙形ニ可書キ故ニ歌讀共ニ各和歌讀テ
奉ト仰セ給レハ皆讀テ奉ルリケ小野道
風ト云手書ヲ以テ令書給ハレ春ノ帖ニ
櫻ノ花ノ榮ル所ニ女車ノ山路行ル繪ヲ
書ル所ニ當テ色紙形有リ其ヲ思シ食シ
落テ歌讀共ニ不給レサリケ道風書キ持行

其ノ歌无ハケレ天皇此ヲレ御覽テ此ハ何
カセ為レ今日ニ成ハテ俄ニ誰カ此ヲ可讀
キ可咲所ノ歌モ无エカラム口惜トケレ被仰
テ暫ク思食レ廻レ藤原伊衡ト云殿上人
ノ少將テ有ラケル召ヌ即チ參ヌ被仰テ云
ク只今伊勢御息所ノ許ニ行テ此ル事ナ
有ル此歌讀テト遣ス此御使ニ伊衡ヲ遣
ス事ハ此人形ナ有様リ始テ人柄ム有ルケ

然ハレ御息所耻トカレ思ヘキ者ハ此ムナ有トル
思食テ撰テ遣ヘシナル然テ此御息所ハ極
テ物ノ上手テ有ルケ大和守藤原忠房ト云
人ノ娘也按忠房且作継蔭亭子院ノ天皇ノ御時
ニ參テ有ハケレ天皇極ク時キメ思食ノ御息
所ニ被成ルタ也形チ心ヨハセ始メ故有テ可
咲ク微妙クカリ和歌ヲ讀ム事ハ其時ノ躬
恒貫之モニ不劣クナリ其レ亭子院ノ法師ニ

成セテ給テ大内山ト云所ニ深ク入テ行セハ
給ハケレ此御息所モ世中冷ク思テエ家ニツ
ククト長メ居ルタ也リケ内渡ノ事共モ事ニ
觸レ思ヒ被出テ物哀ニ思ヒ居ルタ間ニ門
ノ方ニ前追フ音スナホレ襪衫ナホレ染ル人入來ル誰
カ有トラム思テ見ハレ伊衡ノ少將ノ來ル也
リテ思ヒ不懸メス何事カ有トラム思テ人ヲ以
テ令問ム伊衡ハ仰ラ奉テ御息所ノ家ニ

行テ見ハレ五條渡ル所也庭ノ木立チ極テ
木暗テ前栽極ク可咲ク殖リテ庭ハ苔砂青
ニ渡リテ三月許ノ事ハナレ前ノ櫻オモヒ懌シ榮ハ
寢殿ノ南面ニ帽額ノ簾所々破テ神タサレ
伊衡中門ノ脇ノ廊ニ立テ人ヲ以テ内ノ
御使テ伊衡ト申ス人ム參トタル云レセハ若
キ侍ノ男出來テ此方ニ入セラ給ト云ハ寢
殿ノ南面ニ歩ミ寄テ居ル内ニ故ルニ女

房ノ音テ内ニ入セラ給ト云簾ヲ搔上テ見
ル母屋ノ簾ハ下リシタ朽木形ノ几帳ノ清
氣ルニ三間許ニ副テ立リテ西東三間許去テ
四尺ノ屏風ノ打馴ルニ立リテ母屋ノ簾ニ副
テ高麗端ノ疊ヲ敷テ其ノ上ニ唐錦ノ首
敷リテ板敷ノ被瑩ル事鏡ノ如シ影残り无
ク移テ見ユ屋ノ躰舊テシ神タサレ寄テ首
ノ喬ノ方ニ居ル内ヨ空薰ノ香水カニ

馥クシホノク白ヒ出ツ清氣ルナ女房ノ袖口
共透リタ額キツ吉キニ三人計簾リヨ透テ見ユ
簾ノ氣色極ク故有テ可ク咲シ耻トカシ思トハ
モ簾ノ許ニ近ク寄テ内ノ仰セ事ニ候フ
夕リ若宮ノ御著袴ニ屏風ニ奉ニ色紙形ヲ
ニ書カ料ム和歌讀共ニ歌讀セ書ルセツ然
然ノ所ラ思落テ歌讀モ不給レハリク其ノ
所ノ色紙形ハ可書キ歌ニ无シ然ハ其歌

廿二之二十

可讀キ躬恒貫之召レ各物ニ行リケ今
日ハ成リ夕タ亦異人ハ可云キ様无ハケ此
ノ歌只今讀テ被遣トナムヤ仰セ事候ルトツ
云ハ御息所極ク驚テ此ハ可被仰事カ有
ム兼テ仰セ有テラムニ躬恒貫之カ讀ムタラ
様ハ何カ有ム増テ俄ニ絲破无キ仰セ事
也思ヒ可懸事モ非リトケ云者音鬚ニ聞ユ
氣ハ氣高ク愛敬付テ故有リ伊衡此ラレ聞

ニ世ハ此ル人モ有トケリ聞ク暫許有ハ嚴
キ重ノ汗衫著ルタ鉤子ヲ取テ簾ノ内ヨ居
リサ出ツ恠ト思フ程ニ早ウ居ルタ簾ノ下ヨ
繪可咲ク書ル扇ニ盞ヲ居テハ差出ルタ也リケ
童ノ可咲氣テ簾ヨ透テ居リサ出ル見ル程
ニ遅ク見付ルタ也リケ亦女房ヨセ來テ蠻繪
ニ蒔ルタ硯ノ管ノ蓋ニ清氣ル薄様ヲ敷テ
交菓子ヲ入テ差出リ酒ヲ勸ハム盞ヲ取

テ有ニル童鉤子ヲ持テ酒ヲ入ル多ト云ハ
モ抑テハ只入ニ入ル我レ酒飲ト知ル也リケ
ト思フ可咲シ然テ飲ツ盞ヲ置トカム為ニル
不置テ度々誣フ四五度許飲テ辛テハ盞
ヲ置ツ亦打次キ簾ノ下ヨ盞ヲ差出リ辭
モト情无トテハ度々飲ム程ニ醉マ女房達
少將ヲ見ハ赤ルミソ顔付眼見櫻ノ花ニ匂
合テ微妙ク見ルユ事无限リ程ニ久ク成レマ

ハ紫ノ薄様ニ歌ヲ書テ結テ同シ色ノ薄
様ニ裏テ女ノ装束ヲ具テ押出リ赤色ノ
重ノ唐衣地摺ノ裳濃キ袴也物ノ色極テ
清ニ微妙シ思ヒ不懸マ事カナ云テ取テ
立マ女房共少將ノ出ル見送テ目出入ル
事无限リ門ヲ出テ隠テ見ニ後手ノ歩
姿窈窕ニ微妙シ車ノ音前ト不聞ニ成
ハ極テ哀ニ思テ居ツリ苜ニ移リ香頓

廿二ノ廿二

ハ取去ケ疎シ此テ内ニ參ヤ參トヤ人ヲ
以テ見セサ給フ殿上口ノ方ニ前追音テ
參ハ此ニ參ト申セ疾ト被仰レ道風
ハ筆ヲ湿シ儲テ御前ニ候フ亦可然キ上
達部殿上人數御前ニ候フ而ル間伊衡少
將物ヲ被テ殿上ノ戸許ニ被物ハ落レ置
テ文ヲ御前ニ持來テ奉ル天皇此ヲ披テ
御覽ニスル先ツ書様マ微妙シテ道風カ書

風若吹もささあんとし梅の香もささあると
見人しつゝ隣あふも人あすも世

花多餘情云帝五系圖云宇多院山陵在大
内山仁和寺西云々故寛平治皇初はじめて
後比而し伊勢うすみり多に並の如く北風すこ
吹かり

袋雙紙云能因魚房ノ車後ニ乗テ行之間
二條東洞院ニテ俄下テ數町步行兼房驚

其問之答云伊勢御家跡也彼御前栽結松于
今侍イカテ乍乗可過哉云々松木ノ末ノ
ニエルマテ不乗車云々

八雲抄抄云先年下今の時沙津小舟り志を
かたつゝ事わき名をさしあはれしはうと
孝ましと少町松免ゆえをゆいしは伊勢
と付しはひある七歌よみしは結しと古松は今乃
ゆふ合し皆伊勢のたしきと右しはるるをさし

あふ事記のきりきりぬ。致しき身の救ふぬ
物少くもなる

皇子 按諸記所載次序不同今姑據皇胤紹運錄列之

醍醐天皇

齊中親王 事詳寬平三年十月十三日

齊世親王 事詳延長五年九月十日

哀慶親王 事詳延長八年二月三十日

雅明親王 事詳延長七年十月廿三日按雅明載明共以延喜末年生敦固哀實母

以寬平九年卒依此考之其失次序明矣

敦固親王 事詳延長四年二月廿八日

齊邦親王

皇胤紹運錄云齊邦親王母女御橘義子參

議廣相女 按又見一代要記

載明親王

皇胤紹運錄云載明親王母從二位藤褒子

左大臣時平女 按褒子所生三子並以明字為名蓋依醍醐帝為子也

敦實親王 年三月二日

行中親王 正月廿七日

行明親王 五月廿七日

某

伊勢集云のりともおくひすすもねくつをへく

よろふ男をけき^{伊勢}汝をらまわたりしきらす

汝之を^寺此^寺き^寺り^寺時^寺の^寺侍^寺の^寺め^寺一^寺は^寺う^寺

弦^寺乃^寺よ^寺り^寺此^寺け^寺一^寺か^寺ぬ^寺人^寺の^寺心^寺を^寺き^寺こ^寺し^寺て^寺し^寺ら^寺る^寺

ゆも^継お^蔭ふも^蔭た^蔭め^蔭い^蔭し^蔭き^蔭け^蔭る^蔭あ^蔭よ^蔭

こ^蔭り^蔭は^蔭ま^蔭お^蔭お^蔭こ^蔭ん^蔭に^蔭は^蔭て^蔭う^蔭ん^蔭ま^蔭を^蔭て^蔭ま^蔭つ^蔭

り^蔭あ^蔭ら^蔭お^蔭お^蔭の^蔭う^蔭も^蔭い^蔭し^蔭き^蔭け^蔭る^蔭あ^蔭よ^蔭

は^温ら^子の^温ま^子の^温ま^子も^温ま^子を^温ま^子に^温は^温ら^温る^温

う^温み^温ま^温ま^温り^温あ^温お^温こ^温ん^温に^温は^温つ^温け^温る^温あ^温よ^温

し^温こ^温ら^温ま^温を^温ま^温こ^温の^温う^温も^温い^温し^温き^温の^温う^温も^温ま^温

ら^温あ^温ら^温ま^温の^温の^温日^温う^温あ^温な^温う^温の^温あ^温こ^温ら^温れ^温

ま^温ま^温の^温ま^温の^温後^温て^温後^温ひ^温る^温月^温若^温う^温ち^温れ^温か^温

文律表五廿五

忠内榮太郎 紀 惟新
關口雄助 源 行之
岡野次郎 兵衛 平 形彦
井上慎太郎 安倍 就正
淨寫

右

宇多天皇事記廿二冊奉命編之

文化七年十二月廿五日

淨寫

井上慎太郎 安倍就正

岡野次郎 兵衛平 形彦

關口雄助 源 行之

忠内榮太郎 紀 惟新

抄録

早川集之助 源 利生

吉川熊太郎 源 忠恒

生田六藏 藤原敬直

寺西隆三郎 源 元長

校正

石原喜左衛門 紀 正明

中山平四郎 源 信名

編輯

中津金十郎 藤原廣昵

勝田彌十郎 源 獻

飯嶋平次郎 源 忠之

摠判

塙 檢 技 保 已 一

